

日高高等学校

実施日時	2019年 10月 29日 (火) 天気：雨
参加者	生徒813名(附属中を含む)、教職員43名(附属中を含む)、地域住民等13名 計869名
実施内容	避難訓練、心肺蘇生法、搬送法・応急手当訓練、HUG訓練、DVD鑑賞 パーティションづくり、消火体験、煙体験

ねらい

- 【1】大地震・津波の発生時、地域と連携を図り、安全かつ迅速に避難ができるように、避難経路の把握、避難方法の手順の確認を行い、実際の緊急避難に対応できる行動力を身に付ける。
- 【2】避難場所である本校に大勢の避難者が来校した際、本校の生徒及び職員・避難者が互いに協力し、安全かつ迅速に避難行動がとれる実践力を身に付ける。
- 【3】中高生における防災学習・スクールを通して、自助・共助に関する理解を深め、将来の避難率先者の育成を図る。

主なプログラム

【1】防災学習

体育館に高校生・中学生の全校生徒を集め、パワーポイントを用いて自助・共助・公助についてと、災害の怖さや備えの大切さを伝える。

【2】避難訓練

13時に地震発生。地震の揺れが収まり次第、ライフジャケットを着て本校のグラウンドへ避難。全員の避難が完了後、校舎3階以上への津波避難を行う。

【3】防災スクール

高校1年生と中学1年生は、地震・津波に関するDVDを鑑賞する。高2は2クラス合同で、消防署職員指導による搬送法・応急手当、消火訓練、本校職員指導によるパーティションづくりを体験した。中学2年生は心肺蘇生法の講習を受けた。高校3年生と中学3年生は教室でHUG訓練を行った。また、高校2年生の防災委員が地域より避難訓練に来られた地域住民とともにHUG訓練を行った。さらに、高校1年と高校2年生のボランティア生徒が、アルファ米おにぎりを作り、全校生徒に配り、試食をした。

概要

【1】防災学習



はじめに過去の災害を振り返り、多くの人が恐れている南海トラフ地震だけを警戒するのではなく、近年の大雨や台風でも多くの命が失われていることを伝えた。

防災対策・災害対応を考えるうえで大切な3つのキーワード、「自助・共助・公助」について考えさせた。過去の災害では自助・共助により多くの命が助かったこと、公助は大きな災害になればなるほど対応が遅れることなど、災害が起こったときは自助・共助がどれだけ大事なことなのか感じてもらった。



大雨や台風では雨量や風速がメディアで情報提供される。しかし、それが実際どれぐらいの量なのか、強さなのかイメージができない生徒が多いので、気象庁が出している「雨の強さと降り方」「風の強さと吹き方」を用いて、気象予報士が使う用語からどのぐらいの雨量や風速なのか紹介した。

次に、後日行われる避難訓練の実施日、実施方法等の説明を行った。「なぜ本校は垂直避難なのか」「なぜ、垂直避難という選択なのか」を伝えた。また、避難

訓練後に行われる防災スクールについて、各学年で実施する内容を写真等用いて説明をした。

次に、本校にある備蓄品の紹介やAED・担架・消火器の数と設置場所を伝え、緊急時には積極的に活用してもらうよう推し進めた。

最後に、県教育委員会よりご提供いただいた「防災ハンドブック」を用いて、内容の紹介や、家族で避難場所を話し合うことの大切さを伝え、さらに災害時での連絡方法に「災害時伝言ダイヤル」があり、活用を勧めた。

【2】避難訓練

13時に震度7の地震発生。3分間の地震訓練音の後、ライフジャケットを着用して各クラスより避難経路にそって避難。避難指示の放送後より避難時間の計測を開始。

今年度は雨天のため、体育館に全校集会を行う隊形で整列した。各学年で点呼し、学年主任が管理職へ報告。管理職が集約完了時点で避難完了時間の計測終了。全校生徒に避難の際の注意点や本当に地震が起こった時には周囲の状況を見て、臨機応変な行動をとることを呼びかけた。

その後、大津波警報発令の想定で、垂直避難訓練を実施。校舎3階以上に避難をし、避難完了の報告を受けて、時間計測をした。



【3】防災スクール

津波避難が完了した後、防災スクールへ入った。中学1年生は煙体験後、各クラスへ戻り、津波に関するDVD鑑賞を行い、中学2年生は柔道場にて消防士の方々による心肺蘇生法の講習を受け、中学3年生は各HR教室でHUG訓練を行った。高校1年生は翔栄館にて津波に関するDVD鑑賞を行い、その後に煙体験を実施。高校2年生はパーティション作りと消防士の方々による消火訓練、応急手当と搬送法を実施した。高校3年生は各クラスへ戻り、HUG訓練を行った。図書館では、高校2年生の防災委員と地域住民の方々でHUG訓練に取り組んだ。また、高校1年生と2年生のボランティアがアルファ米のおにぎりを作り、全校生徒に配り試食してもらった。



参加者感想文

<中学生の意見>

【防災学習】

・災害が起こった時は積極的に自分の安全も気にしながら共助に参加しないとだめだなと思った。そして、みんなの力で協力し、災害を乗り越えないといけない。

・今回を機に備えたいと思う。今まで何も考えていなかったが、家族と話し合いたいと思う。避難場所も知らないので決めたいと思います。それが自分のためにも家族のためにもなるから。

・今日の防災学習を通して、国から物資や人を送ってくれるから大丈夫と思っていた考えが変わった。

・避難訓練や防災学習を一つひとつのことを意識して行動し、一番大切な自助、そして共助を地域や学校で強めていきたいと思う。

・自分が助けてもらう側ではなく、何かあった時に小さい子の手を引くことができる人になりたいと思った。

【避難訓練】

・ライフジャケットをすばやく着用できるように着方の説明が書かれた紙を教室に掲示すれば、素早く避難できるのではないかな。

・ライフジャケットのフードをきちんとかぶっていない生徒がいた。先生にいわれてかぶるのではなく、身を守ることを自分で考えて行動することが大切だと思う。

・移動の際、始めに避難する人が一番速く動かないと、後ろの人はどうしても詰まってしまうと思う。詰まらずに避難できたら、しゃべる余裕もなくなり、またしゃべる人

が減ると思う。

・体育館までの避難の間、廊下や体育館に入ってから大きな声で話をしている高校生がいたり、訓練にも関わらず笑っている声が聞こえた。

・高校生が教室へ避難してくると、かなり大きな声でしゃべっていて、先生に注意されていた。私はこれを見て、いくら訓練だからといって、ここまで緊張感がないと、本番のときにも何かあるんじゃないかと心配になった。

・みんなができていく当たり前のことをできない方がかっこ悪い。

・訓練をきちんとやっておくと、本当に来たときにはスムーズに動くことができ、より生存率が上がると思う。だからもっと真剣にやって、そこで覚えたことを家族や周りの人にも伝え、全員が準備すべきだと思う。

・友達と笑って話をしている高校生を見ました。これは協力といえるのでしょうか。周りの人たちの逃げ道をなくしていつていると思います。協力とは何か。友達の命を守ることはどういうことか、もう一度考えたい。

【防災スクール】

・(HUG) 意見の対立から対応が遅くなってしまうことはいけないことだとも思ったので、そのような時にしっかりと決めてくれるリーダー的存在も大切だと感じた。

・(HUG) 避難所をどう使うかを考えていくことは、交流するという点でも学ぶという点でも自分の力になる良い機会となった。

・(HUG) 避難所へ来た人が、「住めればいい」

のではなく、「ストレスなく、どれだけ快適に過ごせるか」を考えるとより一層難しかった。

・(心肺蘇生法) 自分はもう助けられるだけじゃなく、他の誰かを助ける側の人間になったことを実感した。

・(心肺蘇生法) AED とは何をするものか知らなかったのも、ものすごく良い経験に成ったと思う。練習ですら少し焦ってしまったので、本当に起きたときには冷静に対応できるようにしたい。

・(DVD 鑑賞) 避難した後に家族と出会えるように、避難場所を確認しておかなければいけないと思った。また、避難している時は、家族を心配するよりも自分が先に避難することを心がけようと思った。

・(DVD 鑑賞) 津波をおそれて生活をするのではなく、津波が起こった時に適切な行動ができるようにすることが大切だとわかった。

<高校生の意見>

【防災学習】

・地震が来たときに落ち着いて行動できるように、家の近くや学校の近くのハザードマップを確認しておきたいと思った。

・過去の災害の記憶が曖昧になっていく中で、大きな災害が起こったことは忘れてはいけないと思った。

・自治体や堤防を信頼しすぎている傾向があると思うので、一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という意識が必要だと感じた。

【避難訓練】

・地震が起こったら誰かは必ずパニックに

なったりすると思うので、そういった人たちを落ち着かせるような行動ができればいいと思った。

・津波の避難で教室に入った時、先に来ていた中学生は話しもせず正しく待機していた。僕たちがお手本となって中学生を引っ張らないといけないのに逆に引っ張られた。全員の命を守るための活動を全員が自覚して取り組むべき。

・友達と一緒にじゃなくて一人で逃げるのが大切。

【防災スクール】

・(HUG) 設営する上で沢山の問題点が出てきてまとめるのが大変だった。災害が起こったときには、高校生の力が一番大事になると言われているので、手伝えるようにしたい。

・訓練を役立てる機会は、本当はない方がいいが、もし地震や火災が起きたときは積極的に行動できる人間になろうと思った。

・(応急手当) どの家庭にでもあるものが役立つことに驚いた。このような知識は災害が起こったときに必要になるので自分でも調べてみようと思った。

・(DVD 鑑賞) 実際に地震が起こった時には恐怖で体が思い通りに動けないかもしれないが、自分の命を大切にしていきたい。また、「これで大丈夫。」という限界を決めず、気をゆるめずに周囲を見て、その都度最善の判断をしていきたい。

・(アルファ米おにぎり作り) どれだけ効率的にできるかを考え、役割分担をして協力して作ることは、災害時でも大切なこと。



成果と課題

【成果】

・(防災学習) 過去10年ほどの間に起きた災害について振り返り、災害の怖さは地震だけではなく台風や大雨でも甚大な被害が起こっていることを伝えると、生徒たちも過去を振り返り、他人事ではないという気持ちを持ってもらえた。また、今回天気用語についてもふれた。生徒の中には知らなかったという意見が多く、新たに知識を付けられたと思う。

・(避難訓練) 今年は生憎の雨天であったが、体育館への避難も予想よりはスムーズにいったと感じられるが、まだ生徒の中には訓練だからと甘い考えの者がいるように見られた。

・(防災スクール) 高校2年生の現地訓練を昨年まで2つの内容だけで、全て体験できていなかったものを、今回全て体験できるように時間を組んでみた。応急手当では時間の関係で説明がほとんどとなってしまったが、災害時に高校生が率先して手助けできるという意識付けができた。災害に役立つことを身に付けられ、有意義なものとなり、生徒一人ひとりの防災意識も高まったと感じる。

防災スクールでの HUG 訓練に向け、振興局から講師の方にお越し頂き、高校3年の防災委員と中高担任・副担任に事前学習を行った。当日は各クラスの防災委員が HUG 訓練を進行し、どのクラスの生徒たちも取り組む姿勢が大変よかった。

今回、雨天のため、本校と一緒に避難訓練を合同で行う予定だった幼稚園・保育園

が不参加となり、防災スクールでの高校生ボランティアによる「防災ダック」や「防災紙芝居」が実施できず、残念であったが、当日に向けて多くの生徒が練習に励んでくれた。

【課題】

・(防災学習) 防災についての役立つ情報まで詳しくできなかつた。災害にも種類があるが、それぞれに役立つ知識や行動など紹介しても良いかと思う。

・(避難訓練) ライフジャケットをスムーズに着用できない生徒が見られた。着用の仕方の説明を学期の始めなどにクラスで行うことが必要だと感じた。各クラスで避難をする流れであったが、生徒一人ひとりに避難経路が浸透していなかつた。まずは教員から把握をしてもらい、生徒へ指導が行き届くように声かけしたい。校舎から体育館への避難の際に素早い避難ができておらず、前が詰まってしまい大変混雑した。今回は雨天のため体育館への避難であったが、実際は体育館の状態もわからないので、正面玄関付近などのスペースに集合させてもよいのではないかという意見もあった。今後検討していきたい。

・(防災スクール) HUG ゲームでは、避難所運営の難しさや、これからの課題など考えさせられた。活動後に、どんな課題が見つかり、その課題をどのように対処・運営させるかを話し合わせる時間を設けた方がより意識が高まると感じた。HUG ゲームで感じたこと、悩んだことを共有させていきたい。